



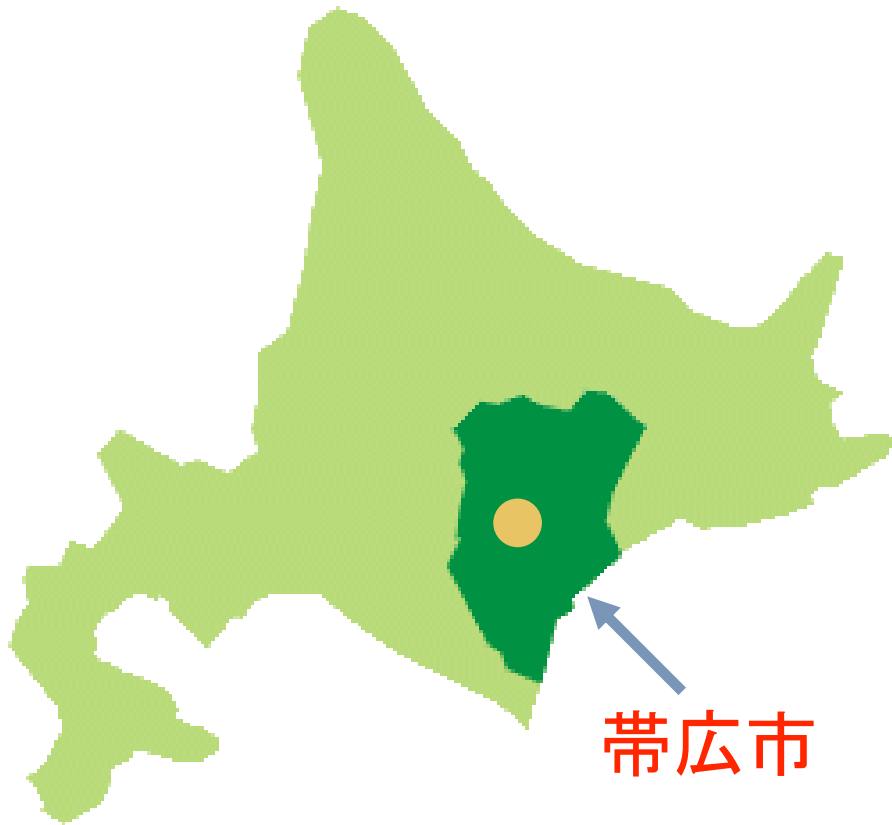
「ホテルで街を作る」 - ホテルヌプカ(帯広市)が 取り組む北海道・十勝でのワーケーション / 関係人口作り

令和3年度「関係人口創出・拡大のための中間支援モデル
構築に関する調査・分析業務」取組報告

2022年3月2日

十勝シティデザイン(株) 創業者 柏尾哲哉

北海道十勝地方



- ❖ 地域人口約35万人
- ❖ 東京から飛行機で1時間30分
- ❖ 日高山脈 & 十勝平野
- ❖ **大規模農業/酪農が発展**
- ❖ 食料自給率1200%
- ❖ **帯広市(17万人)が中核都市 but 中心市街地の空洞化現象**

畑や牧場が広がる広大な大地



中心市街地の空洞化課題

十勝シティデザイン(株)について

- 2014年8月、柏尾 & 坂口が共同創業
- 帯広中心市街地を再活性化する事業
- 「北海道・十勝」を「世界」に繋げる
- 短編映画、ホテル、クラフトビール、馬車BARなど
様々の新規事業を開始

R3年度の事業テーマ

「リゾベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大
を目指す「都市圏起点＋コミュニティホテル仮説型」
中間支援モデル構築に係る調査・分析業務

① 関係人口創設・拡大に向けた地域滞在テーマ

「リゾベーション型滞在」

ビジョン・テーマ

「リゾベーション型滞在」の普及を軸に関係人口の創出・拡大を実現する

リゾベーション

Resworvation = ResortxWorkationxInnovation



リゾート | 地域・地方の観光資源を活かした魅力度の高い滞在モデル



ワーケーション | テレワーク/リモートワークの普及を活かし、仕事と観光滞在の両方を充実させる地域滞在モデル



イノベーション | 都市圏の企業・生活者と地域・地方の資源/人材/企業等とが相互に出会い・交流することで、新たな価値を創造する



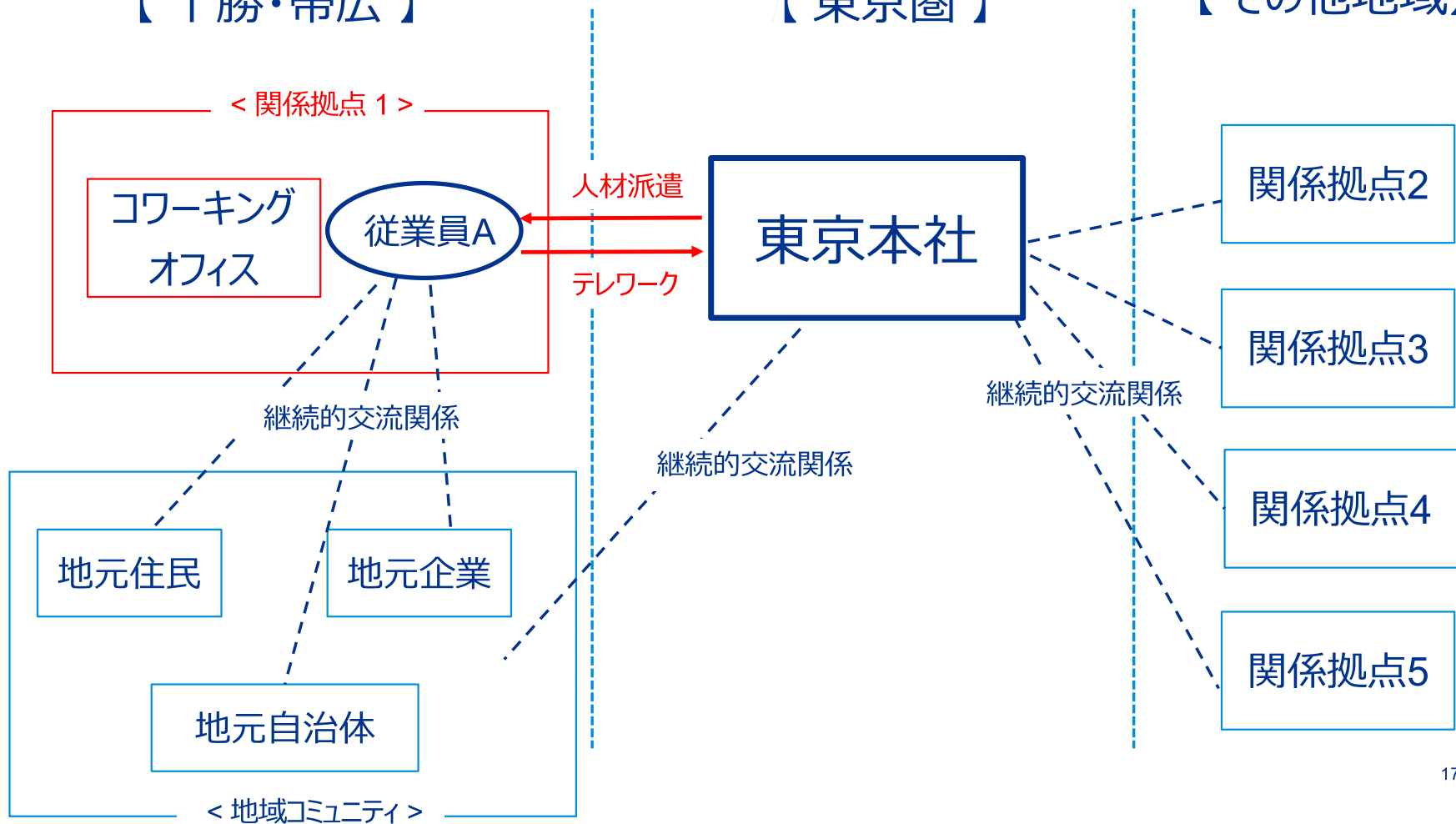
単に「東京での仕事を地方で行う」ことを超え、より積極的に地域・地方と継続的に交流し、新しい付加価値・事業・プロジェクトの創造を目指す「関係人口創出型」地域滞在モデル。

関係拠点とは？ (イメージ)

【 十勝・帯広 】

【 東京圏 】

【 その他地域 】



② 地域側での滞在拠点モデル

「コミュニティ・ホテル仮説」



HOTEL NUPKA

2016年



- 映画自主制作メンバーの柏尾哲哉、坂口琴美が共同で事業開始
- 米国ポートランド市(オレゴン州)のACE HOTELから着想を得て事業企画を開始
- 帯広市中心市街地活性化協議会の認定事業、経済産業省の中心市街地再生事業補助金の支援を受ける
- ホテル/カフェ/イベント開催を柱として旅人と地元の人が集まり/出会いが生まれる場となる

2019年

BASHA BAR



- 2019年4月より、帯広の夜の街なかを輓馬ムサシコマが曳く馬車で巡る「馬車BAR」ツアーの運行を開始。
- 馬車は高級感あるBAR仕様、車内または2階席にて旅のはじまりのビールやローカルフードなどを楽しめる。
- 世界で唯一「ばんえい競馬」が開催される十勝だから開催できるプレミアツアー。
- 運行を継続・拡大することで馬と人が共存する新しいコミュニティ作りに繋げていく構想

○ NUPKA Hanare



- 第一生命様帯広支社ビル「第一 ライフ・デザイン・スクエア 十勝」の2-3階に全24室を新設。
- 1Fエントランス部にテレワーク施設「Hanare LOUNGE」を設置(ゲスト以外の利用者にも開放)

Hanare LOUNGE



個室型ワークブース



QRマガジン+ QRライブラリー

レンタ
サイクル

レンタサイクル「とっちゃん」

(4月～11月/帯広市)



観光に便利な帯広駅前にあるレンタサイクル

本格的ロードバイク、クロスバイクから市街地観光に適したシティサイクル、バスにも乗せられる折りたたみなど、様々なタイプの自転車をご用意しています。

レンタサイクル「とっちゃん」



machicen.com/bicycle/

まちやど
CITY-WALK

馬車 BAR

(通年/週4日運行/帯広市)



ばんえい十勝で活躍した挽馬が曳く、馬車ツアー

ソリを曳いた馬たちが力と速さを競う、世界で唯一の「ばんえい競馬」がある帯広市。その夜のまちなか景色を、お酒とおつまみを楽しみながらめぐる馬車ツアーです。JR帯広駅から徒歩3分の中心市街地にあるHOTEL & CAFE NUPKAを発着地点に、約2キロのコースを50分ほどで巡ります。

地元素材のクラフトビールやおつまみをお供に、北の屋台、帯広駅前など賑わい溢れる夜の中心市街地を馬車から眺める異日体験をどうぞ。ツアー後には馬車から飛び出して先ほど眺めた街中に繰り出し、また違った景色やローカルフードを楽しめます。

馬車 BAR



bashabar.com

NUPKA Hanare

暮らしたくなる部屋の拡張として、 スマートシティの構想を描き続ける



NUPKA Hanare

HP : <https://www.nupka.jp/nupka-hanare/>

NUPKA Hanareは、帯広駅近くにある第一生命保険所有の1974年築6階建てのオフィスビルの大規模改修に伴い、帯広市、第一生命保険株式会社、十勝シティデザイン株式会社の三者による『ワーケーション推進連携協定』のもとに誕生した。建物の2・3階がホテルの客室となっており、1階の「Hanare Lounge」ではカフェのよう



十勝シティデザイン
(株)
創業者
柏尾哲哉氏



十勝シティデザイン
(株)
代表取締役支配人
坂口琴美氏

③ 事業の企画・集客モデル

「都市圏起点仮説」

十勝・帯広リノベーション協議会

「リノベーション型滞在」を十勝・帯広地域を拠点としてモデル実証的に最初に実現し、全国的な広がり結びつけることを目的として2020年5月に結成。地元企業（十勝シティデザイン・十勝バス）と東京圏の企業群が協働し、事業仮設を構築しながら社会実装に向けて取組みを継続している。令和3年度「中間支援組織の提案型モデル事業（内閣府）」及び「地方創生テレワーク交付金（内閣府）」に事業採択。

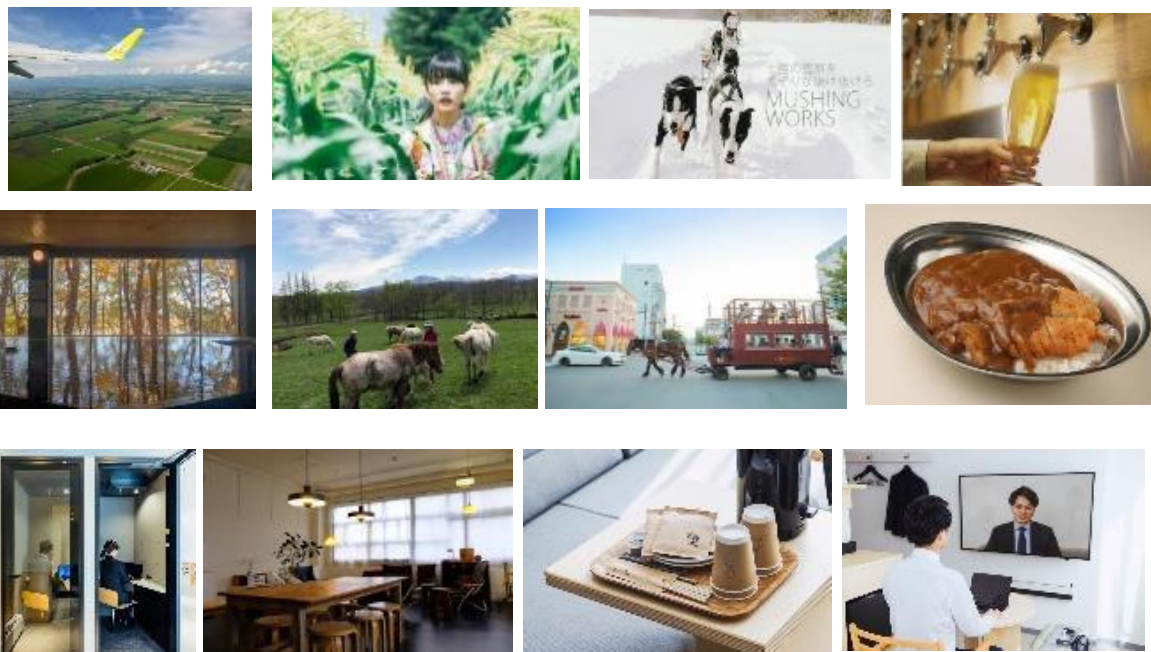
会員	主な事業内容	キーワード	協議会における役割
十勝シティデザイン株式会社	宿泊、観光業	テレワーク施設、地方創生	代表団体・発起人
KPMGモビリティ研究所	コンサル、シンクタンク	次世代モビリティ、スマートシティ／スーパーシティ	協議会事務局・発起人
十勝バス株式会社	陸運業	次世代モビリティ、大空ミクロ戦略、スマートシティ／スーパーシティ	
ANAホールディングス株式会社／ANAX株式会社	空運業	関係人口創出、首都圏企業と地方都市との連携促進	
一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会（三菱地所）	—	まちづくり、環境ビジョン実現、産官学民連携	
株式会社電通	広告業	地方創生	
シオルダン株式会社	情報サービス業	MaaSアプリ	
株式会社シオルテ	情報サービス業	予定表アプリへの地域イベント情報掲載	

「リノベーション・イベント」の開催（東京 & オンライン）



- 2021年6月～10月まで毎月1回開催（各回60-90分程度）
- リアルイベントは東京で開催（オンライン開催のみの場合もあり）
- 「リノベーション滞在」「関係拠点作りの基礎から十勝・帯広の最新現地情報までご紹介
- 動画 + 写真 + トーク + クラフトビール + ローカルフードを組み合わせエンターテイメント性の高い演出
- 個別の説明セッション（オンライン）を開催しフォローアップ

「十勝・帯広リゾベーション体験ツアー」の実施



- 2021年7月/9月/10月の3回開催予定
- 2泊3日(木金土)又は3泊4日(水木金土)をコア日程
- 参加者数: 20名程度(会社数は5-10社程度)
- 一定時間を通常業務のテレワーク時間に充てて仕事体験
- 挑戦する事業者訪問 / 地元の人たちとの交流イベントを開催
- ツアー体験報告動画を主催者側で製作

本年度事業の実施内容

2.活動内容

3回にわたるリノベーション体験ツアーを中心に、首都圏でのオフライン/オンラインイベントをX回実施
以下集客実績を達成

- ・ ツアー参加者、延べ89名
- ・ イベント参加者（オンライン&リアル）、延べ約220名

FY2021

6月	7月	8月	9月	10月	11月
▲6/18 プロモーションイベント @オンライン	▲7/15 プロモーションイベント @オンライン+帯広 ▲7/8-10 1回目ツアー	▲8/30 プロモーションイベント @松崎+オンライン	▲9/24-27 2回目ツアー	▲10/6 プロモーションイベント @東京	▲11/4 事前研修 ▲11/11-13 3回目ツアー
第1回ツアー		第2回ツアー		第3回ツアー	

【プロモーションイベント】
旅のはじまりナイト十勝・帯広リノベーションツアーのご案内(オンラインイベント)



【プロモーションイベント】
帯広市リアル+オンライン
松崎町オンラインイベント



【第2回ツアー】
イノベーション創出ベンチャーマッチング 札幌・帯広



【プロモーションイベント】
東京リアルイベント
セミナー：バイオマス都市構想帯広市の事例紹介
セミナー：バイオマス・脱炭素の取り組みの世界動向



十勝バイオマス産業都市構想



【第3回ツアー】
十勝帯広の自然資源を活かしたカーボンニュートラル体験



【第1回ツアー】
地域の



HOTEL NUPKA

2.活動内容

活動内容①

首都圏イベント/オンラインイベント等の開催

リノベーション型地域滞在に係る都市圏企業向けイベントの開催（都市圏起点型）

緊急事態宣言、蔓延防止措置もあり、リアルからオンラインでの実施中心

イベント名（開催日）	内容
旅のはじまりナイト（オンライン）十勝・帯広リノベーションツアーのご案内（2021年6月18日）	<ul style="list-style-type: none"> ①NUPKAが考えるアフターコロナの新しい「働き方」「暮らし方」 ②転換点を迎える「東京一極集中」と「地方創生」の新しい方向性 ③十勝・帯広での「リノベーション滞在」は何が楽しいのか？ ④「十勝・帯広リノベーションツアー（第1回）」のご紹介 ⑤滞在拠点となる「NUPKAHanare」（2021年4月オープン）のご紹介 <申込者数オンライン38名>
人口減少社会のデザイン-地域分散社会の実現に向けた十勝・帯広発での挑戦（オンライン+リアル開催）（2021年7月15日）	<ul style="list-style-type: none"> ①広井良典京都大学こころの未来研究センター教授のご講演 ②十勝シティデザインの取組紹介 <申込者数リアル10名+オンライン77名>
旅のはじまりナイト（オンライン）@静岡県松崎町-北海道・十勝原野開拓の先駆地から令和時代の新しい地域発イノベーション創出を考える&第2回リノベーション体験ツアーのご紹介（2021年8月31日）	<ul style="list-style-type: none"> ①HOTELNUPKAの取組み及び「十勝・帯広リノベーション体験ツアー（第2回）」のご紹介 ②帯広と松崎町の関係と明治期の依田勉三に関するストーリー ③十勝・帯広における新しいイノベーション創出トークセッション <申込者数オンライン72名>
旅のはじまりナイト@クラフトビレッジ西小山（東京開催）（2021年10月6日）	<ul style="list-style-type: none"> ①十勝・帯広での関係人口創設・拡大の取組み紹介（byHOTELNUPKA） ②十勝・帯広を拠点としたジオルダン様/ジオルテ様の取組事例 ③クラフトビレッジ西小山と都市圏側で関係人口支援の取組み（byUR都市機構） ④「十勝・帯広」動画上映セッション ⑤第3回十勝・帯広リノベーション体験ツアーのご案内 ⑥「歓談・ミートアップ」セッション -十勝・帯広から届くローカルフードと共に <申込者数 リアル50名>
十勝・帯広リノベーション体験ツアー事前イベント（オンライン）（2021年11月4日）	<ul style="list-style-type: none"> ①バイオマス都市構想帯広市の事例紹介（by帯広市経済企画課） ②バイオマス・脱炭素の取り組みの世界動向（byKPMGコンサルティング） ③第3回十勝・帯広リノベーション体験ツアーのご案内 <申込数 オンライン28名>



2.活動内容

活動内容②-1

第1回体験ツアー

2021年7月8日（木）～7月10日（土）

地域の暮らしヘディーブ・ダイブ

様々な施設でのテレワーク体験を中心に、
地元企業を訪問し、地元の新しい取り組み体験地元の人々との交流会を実施
個人参加を含め計15名の参加



<https://youtu.be/oGnP2jpGAGk>

訪問先	実施状況
テレワーク体験@NUPKA・LAND	3か所のコワーキングスペースで各々テレワークを実施（さっそくチーム会議を行う人、個室ワークブースでオンライン会議を行う人も） 地方においても首都圏同様に仕事ができることを体感
テレワーク体験@丸美が丘温泉	首都圏では稀な温泉付きコワーキングスペースでのテレワークを体験
帯広商工会議所	「夏になるとバツが繁殖する、そこに豊かな土地があるはず、という信念のもと海側から内陸へ進出した」「最初から恵まれた土地ではなかった、人々の努力によって農業に適した土地となった」などの十勝の人々のフロンティアスピリットに関するお話を拝聴
帯広市役所（経済部商業労働課）	ワーケーションの課題について、帯広市とディスカッションを実施
テレワーク体験@フェーリンドルフ	グランピング施設でテレワークを体験 普段とは異なる環境での作業がリフレッシュに繋がったとの意見も多数
とかち井上農場	十勝の広大な土地・空を体感 十勝従来の「量産」ではない「手間暇かけて付加価値」の農業を実現した雪蔵熟成じゃがいもの熟成庫を見学
大空団地	十勝バス・大空団地による地域活性のための取り組み内容を聞き、活用可能性のディスカッションを実施
馬車BAR体験 交流会@NUPKA	地元の方々も参加し、各々交流を実施 急遽帯広市と参加者による馬車BAR内での会議も開催され、地方創生企画を検討



ツアーの滞在拠点となった
Hanare LOUNGE



井上農場



麦音



どさんこ牧



温泉併設型のワーケーション環境



2.活動内容

活動内容②-2

第2回体験ツアー

2021年9月24日（金）～9月27日（月）

イノベーション創出ベンチャーマッチング 札幌・帯広

帯広・札幌での現地ベンチャー企業とツアー参加企業のビジネスマッチングイベントを中心に、

一部でテレワーク体験を実施

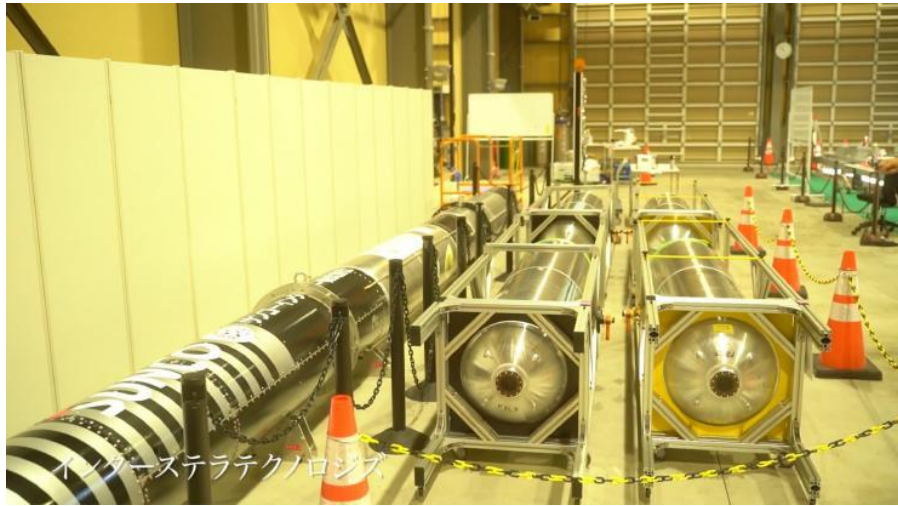
緊急事態措置期間中の実施であったため、地元の人々との交流会は未実施

企業参加を中心に、計41名の参加



https://www.youtube.com/watch?v=L_heFlmTtPQ

イベント・訪問先	詳細
帯広・十勝エリアベンチャーピッチ ・Fant ・Koya.Lab ・いただきますカンパニー ・AirShare	現地側企業のみならず、首都圏側参加企業からも事業プレゼンを行い、現地ビジネスチャンスについて活発な議論を行う 地元資産を活かしたビジネス展開を行う企業が多く、十勝の資産の豊富さを感じられた場となった
大樹町インターステラ	大樹町から世界へ向けた大きなチャレンジを行う企業を訪問 ロケット打ち上げ現場等を見学
とかち井上農場	十勝従来の「量産」ではない「手間暇かけて付加価値」の農業を実現した雪蔵熟成じゃがいもの熟成庫を見学 雪蔵熟成じゃがいも生産を行うことで得られたメリット（消費者の声）について
上川大雪酒造 麦音（パン屋）	フードバレーとかちを感じられる地元のお店を訪問
ロイヤルパークキャンパスホテル札幌視察	国産木材（主に北海道産カラマツ）を活かしたホテルの見学
札幌エリアベンチャーピッチ ・AWL ・Aill ・キタモビ ・調和技研	地元資産活用が多い十勝に比べ、IT・AI企業が主となり、都市部の特色を感じられた 首都圏側参加企業からも事業プレゼンを実施



イノブテラテクノロジー



しんむら牧場



六花の森



井上農場 -雪室-



馬車BAR



帯広畜産大学 -上川大雪酒造-

2.活動内容

活動内容②-3

第3回体験ツアー

2021年11月11日（木）～11月13日（土）

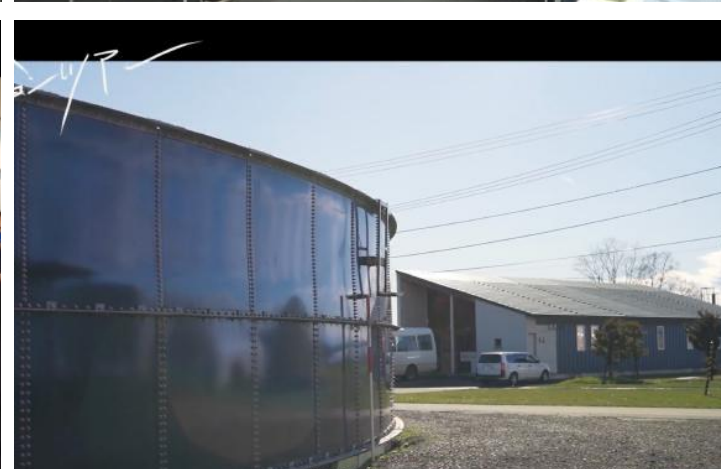
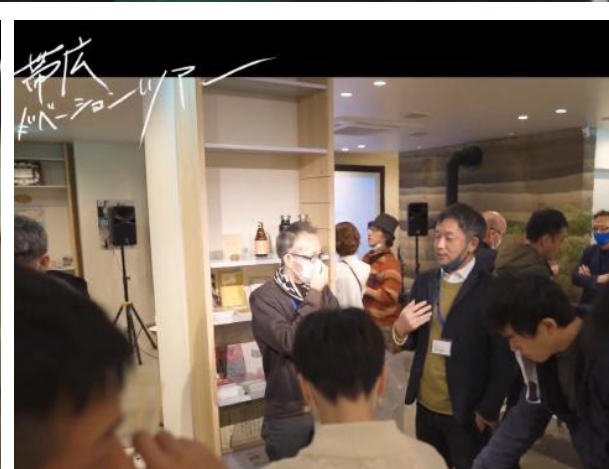
十勝帯広の自然資源を活かしたカーボンニュートラル体験

十勝帯広の自然資源を活かしたカーボンニュートラルをテーマに関連施設の訪問を中心に、参加者による新事業アイデアディスカッションを実施
企業参加を中心に、計33名の参加



<https://youtu.be/HM3K0cOOQDQ>

イベント・訪問先	詳細
十勝バイオマス都市構想講義（帯広市）	最初に認定された十勝・帯広での取り組み、課題をINPUT
研究内容特別講義（帯広畜産大学）	十勝ならではの大学研究シーズをINPUT ・ 帯広畜産大学のオープンイノベーションを目指した取組み（産学連携センター 特任准教授 東陽介） ・ 持続的畜産業実現にむけた未利用資源を活用した牛などの家畜用飼料への応用（生命・食料科学研究部門 教授 西田武弘） ・ 自然と調和した農林水産・食・Well-being（産学連携センター 特任教授 宮下和夫）
スタディケーションの取組みプレゼン（スタディケーション学生）	首都圏学生が休学中に十勝でインターンを行うスタディケーションについて、活動内容や今後の展望をINPUT
鹿追町環境保全センターバイオガスプラント	バイオガスプラント内施設見学 バイオガス活用における課題をヒアリング
広瀬牧場ウエモンズハート	普段食している牛肉、牛乳ができるまで、一酪農家として取り組んでいる持続可能な取り組みなど、酪農の現実をヒアリング
地元で活動している組織の紹介	とちかち熱中小学校、一般社団法人十勝スタイル、とちかち財団
浦幌町TOKOMUROLab訪問	フォレストデジタル社のデジタル森林浴体験 バトンプラス社の地元カラマツを使用した木材製品工房を見学
グループディスカッション・プレゼン	業種の異なるメンバーが集まり十勝・帯広のニーズ・シーズ、そこから導き出せる事業アイデアをディスカッション 短時間であったにもかかわらず、実現可能性の高い事業アイデアも生まれるなど、参加者同士でも有効なコミュニケーションが生まれ、効果的なネットワーキングの場となった
地元の人/参加者間の交流・懇親会	地元の方々も参加し、各々ネットワーキングを実施



本年度事業の成果について

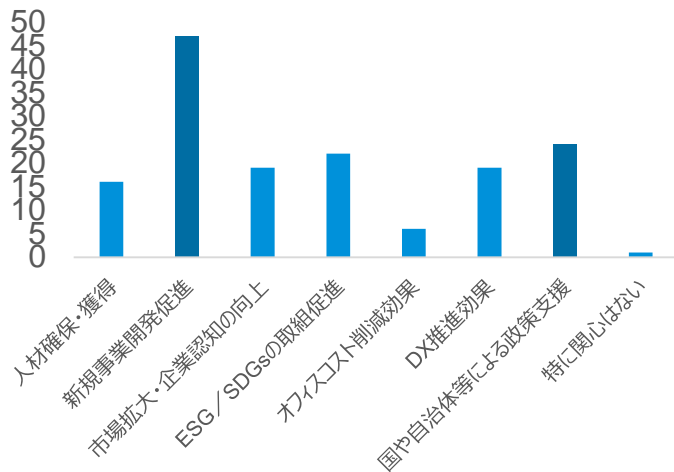
活動内容②を通し、当初仮説に基づく結果を参加者へのアンケートを基に集計

リノベーションの訴求力

仮説：「リノベーション型地域滞在」という新しい視点で都市部生活者や企業が地域との関わりをもつ滞在提案が単なるワーケーションを上回る訴求力を有する。

リノベーションにメリットがあると回答したのは全員

<リノベーションに感じるメリット>



特に**新規事業開発促進への関心**が高く、

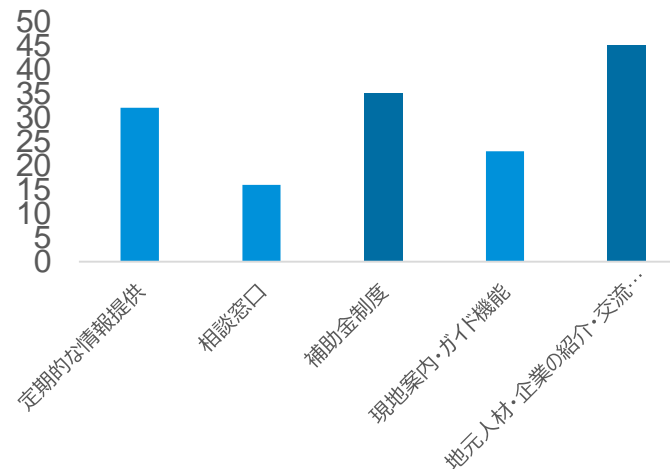
国や自治体等による政策支援への期待も高い

企業側への働きかけ

仮説：都市圏生活者を雇用する企業側へ情報提供やコンサルティング機能を提供することでより効果的な関係人口創設・拡大効果を発揮する。

関係人口創設のために**企業側への働きかけが有効**であると回答したのは**全員**

<地元自治体・企業への期待>



自治体による**補助金制度**や現地（企業・自治体含む）での**地元人材・企業の紹介、交流機会**が関係人口創設の後押しとなる

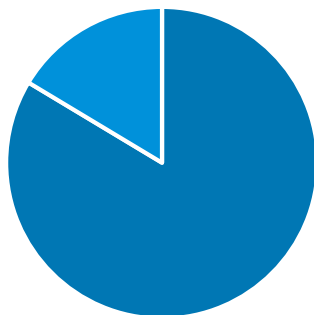
活動内容②を通し、当初仮説に基づく結果を参加者へのアンケートを基に集計

コミュニティホテル仮説

仮説：都市圏側からの訪問者に対して、コミュニティホテル仮説に基づき地域での体験演出を行うことで、地元生活者との交流効果の実効性が高まる。

滞在拠点となったコミュニティホテル滞在が地元交流や地域の体験に有効であったと回答したのは**51名**

<コミュニティホテルが地元交流や地域体験に有効であったか>



- 有効であった
- どちらでもない
- 有効ではなかった

参加者は滞在者や他者同士のコミュニケーションの場を求めており、コミュニティホテルが有効といえる

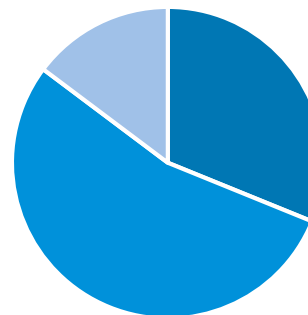
ホテル機能だけでなく体験演出（体験ツアー）が地元を知る・好きになるきっかけづくり、テレワークを含む現地での暮らしや地元企業との協業イメージを持つことに繋がっている

業務効率の確保

仮説：十勝・帯広での「リゾベーション型地域滞在」中、テレワークにより都市圏側の仕事を業務効率を下げることなく、低ストレス・快適に行える。

効率が上がった・都市部滞在時と同等と回答したのは**17名**

<テレワークで業務効率が上がった・もしくは上がると思うか>



- 業務効率が上がった・上がる
- 普段（都市部滞在時）と同程度
- 業務効率が下がった・下がる

第3回の参加者は普段からテレワークが前提の業種・職種が多く、場所を変えても普段の効率と同程度という回答が多く得られた
通信セキュリティへの懸念、通信インフラ、設備（コピー機・モニター等）の不足が効率低下の要因として挙げられる

活動内容②を通し、当初仮説に基づく結果を参加者へのアンケートを基に集計

価値創造機会の創出

仮説：市圏側の訪問者が地域側の住人・企業・自然その他の地域資源に現地で触れることで価値創造機会が生まれること。

参加者大半が現地で訪問した企業の事業に関心を示し、今後も関わりたいと感じている

実際の体験が今後の現地での事業展開の可能性に繋がっているといえる

関心領域の高い業種：農業・酪農、食品

雇用機会の創出

仮説：都市圏企業による地域側労働者の雇用（オンラインでの労務提供）や地域側企業による（オンライン+副業での労務提供）が創出されること。

地方での雇用が有用と感じているのは31名となり、多様な人材確保に期待をしている

第3回参加者は各組織責任者の割合が多かったため、新事業とあわせて地方雇用にも興味があるという結果が得られた

現時点で不明、もしくは有用と感じない理由としては、地方人材のポテンシャル（スキル等）が不明であることが挙げられる

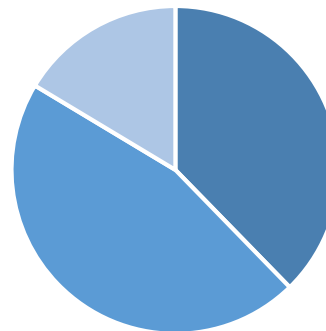
地方側の受入れ体制の強化（人材紹介機能等）や継続的な交流機会提供が必要と想定される

経済合理性の確保

仮説：都市圏企業が、地域側での「リノベーション型地域滞在」を継続的に推進することがオフィス費用の削減などを含めた経済合理性を高める効果を有すること。

経済効果が得られると感じると回答したのは半数以下にとどまる

<リノベーション型滞在は貴社に経済的効果があるか>



- 経済的効果が得られると感じる
- 現時点では不明
- 経済的効果は得にくいと感じる

経済的効果を感じる理由としては、新規事業開発可能性があることが挙げられる

一方、経済効果を得にくいと感じる、もしくは、現時点では不明である理由としてテレワーク可能なIT環境を作ること、情報管理や労務管理などの対応が必要になるといったテレワーク上の課題が挙げられる対応として、現地側でのシェアオフィス整備等も必要と想定される

2.活動内容

本年度実施された本事業に係る成果（と今後に向けた課題）の全体的総括

「リゾベーション」コンセプトの有効性

都市圏の仕事を地域で行うだけではなく、地域の資源や人との交流を通じてイノベーションを起こす「リゾベーション」のコンセプトに対して明確な共感を得られた。

「都市圏起点仮説」の有効性

コロナ禍による緊急事態宣言等が相次ぐなか、十勝・帯広リゾベーション協議会の会員の声かけで、合計89名の大都市圏側のツアー参加者を得ることができた。「都市圏起点仮説」は有効性が裏付けられたといえる。

「ホテル仮説」の有効性

ツアー参加者のアンケート結果などからも、ホテルが交流機能を持ち関係人口を創出・拡大に向けて有意な役割を持ちうることは実証されたといえる。

地域側関係者側からの協力

ツアー実施時に、農業従事者による見学受入、ビジネスマッチングへの地域側事業者の参加、帯広商工会議所や帯広信用金庫などによる会議室提供など、地域側関係者からは関係人口との交流へポジティブな協力を得られた。

ツアー参加者の属性等（法人 vs 個人）

企業経営者から法人所属の従業員、フリーランサーなど事業上の問題意識の高い層が多く、「関係人口」創出・拡大に向け事業合理性を踏まえたフィードバックを得られた。

ツアーの企画内容

当該地域でのテレワーク体験を中心とした第1回目ツアーをベースに、第2回ツアーは地域側事業者と都市圏側参加者のビジネスマッチング、第3回ツアーはバイオマスを素材として新規事業創造をテーマにするなど多様な展開を試み、参加者から有意義なフィードバックを得られた。

「新規事業」への関心

ツアー参加者の多くがビジネスパーソンであることから、「新規事業」への関心の高さがアンケート結果などから明白となった。今後の関係人口創設・拡大に向け、都市圏企業やビジネスパーソンの当該地域における「新規事業」機会を、地域側がより雄弁に語れる必要が認識された。

学生の参画とスタディケーション企画との連携

本事業の「リゾベーション推進」の取組みに共感した首都圏側の大学生（帯広出身）が、大学を休学し、首都圏側学生との関係人口増大を目指す「スタディケーション」活動を開始。本年度のツアー運営等への協力を通じ、学生と社会人、幅広い世代の交流促進に大きな役割を果たした。

「地域間連携」の必要性と可能性

都市圏企業やビジネスパーソンが、地域を拠点とし、地域資源を活かした事業創造の可能性により積極的に取り組むためには、より多くの地域に「リゾベーション型」の関係人口誘致が広がり一般化することが有効である。

UR都市機構と共同開催した 関係人口イベント in 東京



3.自立化・自走化の検討

項目	検討内容
事業性	今回実施された「リノベーション型地域滞在に係る都市圏企業向け体験ツアー」（合計3回）は、十勝・帯広までの渡航費と滞在費は参加者負担で募集されたが、コロナ禍の困難な環境下にも関わらず89名の参加を得ることができた。「リノベーション滞在」のコンセプトと密度の濃いツアー企画があれば遠距離でも集客可能なことが実証されたといえる。今後に向け様々な工夫を加えた上で事業としての自立化・自走化は可能と考える。
今後の改善項目	本事業年度の体験ツアー実施で明確となったことは、企業側の「地域における新規事業機会」の可能性への関心が最も高い点である。今後の事業自立化・自走化、そして事業の意義を高めるためにも、当該関心項目に関する地域側からのメッセージを明確化・具体化することである。当該地域の地理・歴史・経済構造・地域資源などを具体的に踏まえた上で都市圏側企業との相互補完により新たに生まれる価値創造のシナリオを示すことが鍵となる。
運営体制	ホテル事業を運営する当社は、コンシェルジュ機能の拡大として、ツアー事業を主体的に実施する基盤とメリットを有する。ただし上記改善を実施する上では当社単独のリソースでは足りず、地域関係者や学生、また都市圏企業側との幅広い連携が必要となる。当該連携を継続可能とするWin-Winな事業スキームの構築が鍵となる。

- 関係人口による反復・継続的な地域滞在を実現できれば事業の自立化は可能
- 渡航費・滞在費の負担がボトルネック
- 地域における新規事業機会を地域側が主体的に示す
- 地域資源を活かす / 全国・世界の流れと連動した取組み

4.他地域への横展開の可能性の検討

項目	検討内容
横展開の意義	今年度実施した①集客イベントの参加状況、②ツアー参加者の数、③アンケート内容からは、当該事業の3つ仮説である「リゾベーション型地域滞在」「都市圏起点」「コミュニティホテル滞在」は、いずれも有効であったと当社は結論付けた。当該仮説を更に精緻なものとし（特に地域における新規事業機会の明確化）、かつ他地域毎の強みや課題の克服を行うことで、当社が実施した事業の他地域への横展開は可能でありかつ有意義であると考え。
横展開に向けた事業スキーム	「横展開」を実現する上で、単なる資料ベースでのケーススタディの紹介等ではなく、十勝・帯広地域と他地域との交流や意見交換が有意義である。その際、オンライン技術を活用することに加え、実際に「リアル」に会って相互に話をしながら相互理解と熱量を共有することが有意義であり必要である。かかる「リアルに会う」機会を創るために、「ホテルが旅をする」の考え方で、当社が全国の地域を訪れ「旅のはじまりナイト」を現地事業者と協働開催する事業を計画したい。
プログラム連携先/地域	当社及び十勝・帯広リゾベーション協議会会員企業が関係性を有する他地域の事業者を軸に、全国47都道府県内で共同イベントを開催する。当該イベントを起点に継続的なオンライン協議や相互訪問の機会を作り、成果や課題の共有、更には共同での取組みなどを発展させ、関係人口の広がりを全国で創り出していく。

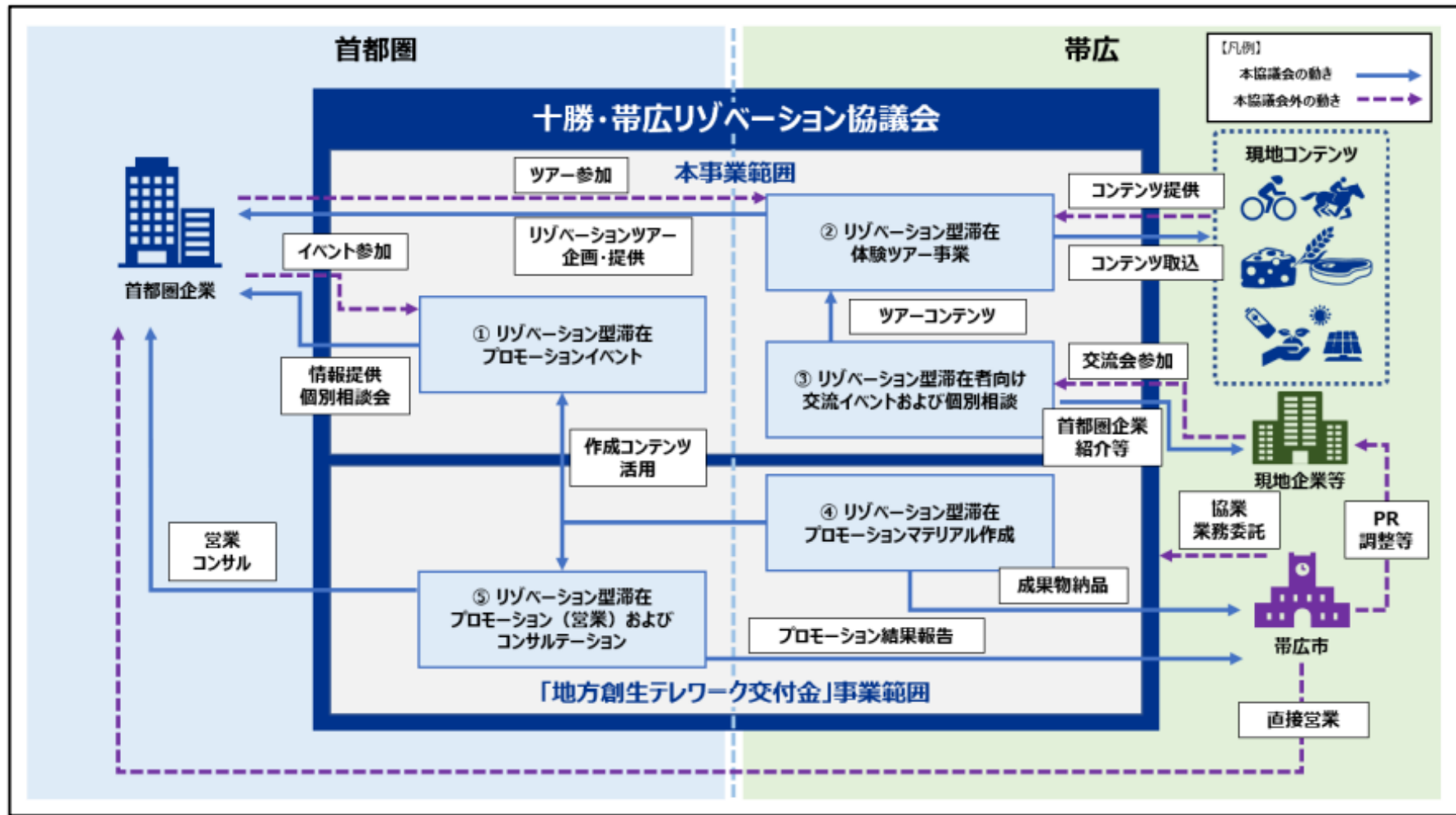
39

- 本事業の3つの事業仮説は有効であった = 他地域への横展開に値する
- 都市圏起点仮説の有効性 = 「一緒に行ってみよう」という声かけ / リアル交流のインパクト
- 「関係人口」が来るのを待つのではなく「地域側が全国に旅に出て」「リアル交流の総量を増やす」

帯広市との連携

1.事業概要・スキーム図

参考資料：各事業の関連性



Thank you!